
デジタルパンク通信 第十六話

Q ポルシェでしょうか。サンダルでしょうか。

A サンダルです。

本名を「ドットコム・ガイ」に改名した人が、やはり元の名前に戻したいと訴えている記事を読んだ。婚約者に嫌われたらしい。ミセス・ドットコムガイになるのがイヤなんだと。いまだきドットコムはカッコ悪いからねえ。西海岸の元ドットコム企業の社長がトライアスロンの選手になるというニュースもあった。華麗なる転身というより、カッコ悪い退散だ。

ビジネスから逃れてスポーツ選手やミュージシャンになる人はまれだろうが、大学に流れてくる人は多い。大学なんてところは才能のないヤツでも勉強できりゃ転がり込んで来られるからな。そのせいかそのおかげか、アメリカのビジネススクールは大はやりだ。事業の夢やぶれて学校に身を寄せる人、起業を遅らせて学生として様子を見ようとする人、そんな人たちで、MBA(経営学修士)の受験申込みが何割も増えているという。理由はどうあれ、そうやって逃げてくる人ってのは勉強したところでどのみち役に立たない。と思うが言い過ぎだろうか。

いずれにしろ、もうかるかどうか状況みながらアッチ行ったりコッチ来たりするのはカッコ悪いぜ。そんなことに関わりなく、スキだからボロボロになってもギター一本で歌い抜く、って方がカッコいいね。かつてアメリカのベンチャー企業はみんなバンド作るノリで突っ走ってたのに、バブルはじけてからは、そんなカルチャーも薄れてきたのかな。

バブルがはじけたというのは、いつかバブルがふくらんだということだ。98年から2000年までデジタル系の株価が上昇して、また98年の水準に戻ったのだが、ひょっとすると、ふくらませてしぼませたのは、あらかじめ仕組まれた戦略だったのかもしれない。デジタル技術の開発に資金が必要な時期、新興企業群にカネを与えて作らせた。さてその成果を産業ぜんたいが吸収する普及期に入ったとみるや資金を引き上げて物価を下げた。とても合理的なシナリオがどこかで描かれていたのかもしれない。

でも、風船がしぼんだからといって困ることはない。ITは花形産業じゃなくてもいい。ポルシェみたいな高嶺の花が、風船しぼんで値段が下がって、みんなが使えるようになって、消費者や他の産業がうるおうなら、それでいい。ITという道具が自転車やサンダルやエンピツや消しゴムのようになるなら、けっこうなことだ。誰もが数台のコンピュータを使い込む時代、身の回りどこでもデジタルがあふれる環境を達成するには、コンピュータはいかに速くするかより、いかに安くするかが決め手になる。1円コンピュータ、使い捨てコンピュータが求められる。熱病が冷めて、地味なモノ作りの段階に入ってきたんだろうと思う。

とすると、これはクリエイトする側にとってチャンスが来たということだ。道具を使って表現する側の出番だ。カッコよくバトンを受け取ることにしよう。
